

漫画・アニメの「オカマ」像

—作られるジェンダー観—

本論文は、漫画・アニメーション作品内の「オカマ」キャラクターの分析と、同じく両性的な特徴を持つ「男の娘」キャラクターとの比較を通して、「オカマ」の表象や同性愛者差別の根底にあるものを明らかにすることを目的とした。

本論の内容としては、先行研究をもとに男性同性愛者の扱われ方の特異性について確認した後、「オカマ」キャラクターの表象と問題の所在について明らかにするため、キャラクターの特徴や作品内での描写に関して分析を行い、得られた情報をもとに、「オカマ」キャラクターと「男の娘」キャラクターの相違点や、それらが抱える問題について考察をした。

結論としては、「オカマ」キャラクターと「男の娘」キャラクターの違いは、キャラクターが持つ本質的な性が、前者は「男性」であるのに対し、後者は「どちらでもない」ことにあると論じ、ステレオタイプ的な「オカマ」キャラクターの描写や男性同性愛者への差別の背景として、「男性」が女性性を獲得することをタブー視する傾向や、男性性が女性性より優位であると見なす文化があることを示した。